

EIIIRISプロジェクト研究計画書(2020年度)

系・センター名 エレクトロニクス先端融合研究所

氏 名 高山 弘太郎

□新規 ■継続

研究課題	先端的植物生体情報計測技術の開発		
研究目的	(EIIIRIS・VBLの研究テーマとの関連, および施設・設備使用目的を明らかに) 太陽光植物工場は、環境制御技術と自動化・機械化技術との融合により、高い生産効率を達成する大規模農作物生産システムとして確立されつつあり、さらなる増収・安定生産を目的としたICTの高度化の流れは年々加速している。一方、太陽光植物工場の性能を最大限に発揮させるには「植物の生育に合わせた栽培・労務管理」が必須となるが、この「植物生育の見極め」が人間の主観的判断に委ねられており、栽培・労務管理の根拠とすべき生育状態の数値データが皆無であることが、栽培・労務管理の効率化の大きな障壁となっていた。このため、本研究では、植物生体情報の計測システムと解析アルゴリズムの開発を行い、植物診断サービスとして社会実装を推進し、太陽光植物工場における作物生産の効率化を行うことを目的とする。本研究開発を遂行するために、EIIIRISに所属する研究者と連携するとともに、VBLの研究室を活用した研究開発を行う必要がある。		
研究計画及び方法	(過去の経過, 研究準備状況等) 平成30年度に人工知能未来農業創造プロジェクト「AIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発」(農林水産省が平成29年度から実施)が内閣府の官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)の対象施策となり、AIを活用した多角的植物生体情報の解析による植物診断精度の向上と栽培・労務管理の効率化を加速させるための技術開発の一環として、EIIIRISのセンシング技術の活用を検討した。平成31年度(令和元年度:2019年度)は、匂いセンサおよびイオンイメージングセンサの活用に関する検討を進めた。		
	(今後の研究計画及び方法, 利用希望設備など, EIIIRIS教員と打合せている場合はその状況) 農林水産省の人工知能未来農業創造プロジェクト「AIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発」に参画し、AIを活用した多角的植物生体情報の解析による植物診断精度の向上と栽培・労務管理の効率化を加速させるための工学的技術開発を担当する。このための技術開発の拠点として、VBLの研究室を使用するとともに、本プロジェクト研究から派生する先駆的植物診断技術の農業生産現場への実装に関する研究開発を実施する。さらに、OPERAにおいてマルチモーダルセンサの農業利用についての検討も進める。		
EIIIRIS・VBL内で研究プロジェクトを行う理由	本研究開発は、EIIIRISで創出される革新的センサを活用した農業生産技術の開発を行う。そのため、研究開発をEIIIRIS・VBL内で行うことで、効率的な研究推進が可能となる。		
研究組織	研究者氏名	所属・職名	役割分担
	(研究代表者名の後ろに◎を付す) 高山 弘太郎◎ 東海林 孝幸	エレクトロニクス先端融合研究所・教授 建築・都市システム学系・講師	植物生体情報計測のためのセンサシステムおよび計測アルゴリズムの開発 植物生体情報計測のための環境制御技術の開発
研究期間:	平成 31 年(令和元年) 4 月 ~ 令和 4 年 3 月(原則として3年間) (研究期間の始期は、研究を開始した年を記入する。終期は原則として、開始した年から3年後を記入する。)		